

## 札幌市環境プラザ運営協議会 平成 29 年度第 2 回実施概要

- 1 日 時 平成 29 年 12 月 11 日（月）19：00～21：00
- 2 会 場 札幌エルプラザ公共 4 施設 2 階 会議室 1・2
- 3 出席者
  - (1) 委 員：伊井委員、鎌田委員、河西委員、鈴木委員、高橋委員、山本委員、早坂委員、寺田委員
  - (2) 札幌市：環境局環境計画課 環境教育担当係長、推進係担当
  - (3) 事務局：（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ

### 4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 札幌エルプラザ公共 4 施設館長 あいさつ
- (3) 委員近況報告
- (4) 議事
  - 平成 29 年度報告（中間報告）
  - 展示コーナー展示物更新について
  - 次期指定管理について
- (6) 札幌市環境局環境計画課環境活動推進担当課長 あいさつ
- (7) 閉会

### 5 議事概要

(1) 平成 29 年度報告（中間報告） 事務局より平成 29 年度事業の中間報告を行った。

#### ●環境教育リーダー派遣制度について

- Q 環境教育リーダー派遣について、昨年度は年度途中で派遣回数の上限に達したが、今年度の状況はいかがか。
- A 今年度の派遣数は環境教育リーダーが 100 件、環境保全アドバイザーを 45 件としている。環境教育リーダーは申し込みが 100 件に達しており 84 回が実施済み。アドバイザーに関しては現在 44 件の申し込みがある。
- Q 環境教育リーダー派遣制度について、運営する側から見た課題、利用者からの声があれば聞きたい。
- A 調整するうえでは、過去に利用した団体から昨年と同じリーダーを希望する依頼があることや、リーダーの活動内容や日時に調整がつかないなどの理由で、派遣するリーダーに偏りが生じている。リーダーからは、活動する参加者が多い場合は派遣リーダーを増やしてもらいたいという声があるが、6、7 人のリーダーを一度に派遣するための調整が難しいことがある。また主催者がリーダーに全て委ねてしまっている状況も課題としてあげられた。利用した方からはお礼の言葉を多くいただいているが、予定通りの活動ができたかどうかは細かく聞き取るようにしている。

### 【今後に向けてのご意見】

- ・この制度をどのように運営していくか、人数だけではない視点で見ていくことが大事であろう。
- ・主催者と環境教育リーダーの間に制度に対する若干の温度差があるのが実態かと感じた。学校では専門的な知識を有しているわけではない分野においては、どちらかという任せになってしまうこともある。やはり事前の打ち合わせの中で、リーダーと主催者の役割などを明確にしていくことでより効果的な制度になると思う。
- ・依頼の際の聞き取りなどが緻密すぎて、派遣依頼がなくなるなど本末転倒になってはいけない。どこまでを求めるのか、バランスを考えていくとよい。

### ●学校への出前事業について

- Q 一つの学校へビオトープをテーマに4年間関わった点について、3年間で一つのノウハウが概ね出来上がり4年目以降は広げる段階と考えるが、そういった時期について何か考えはあるか。また、教師向け研修の際にビオトープを登場させなかったのはもったいないと感じる。環境プラザではこういうことができる、ということを知ってもらえる機会だと思う。今後、事業間をつなげ、広げていくということが必要になるのではないか。
- A 当初3年間で予定していたが、再度の依頼に応えた状況である。事業間のつながり、広がりについては今後意識していきたい。

### ●学生サポーター制度について

- Q 対象としてどういった学校に声をかけているのか、また交通費を支給しているのか。
- A これまでの活動でつながりのある大学の先生にお願いしたほか、北海道大学や北海道酪農学園大学など環境に関連する学部や部のある学校を選んでいる。これまでの実績から保育系の専門学校にも広報した。交通費は参加した際に十分な額ではないが一律840円を支給している。

### 【今後に向けてのご意見】

- ・私たちのところでは環境教育系の学部の学生を対象に、大学院の先生と共に環境授業を行っている。学生はほぼ留学生である。環境に対し志を持っている日本人学生は多いがそれを受け入れる社会の器がないという話を聞いたことがある。次世代育成として子どもたちに環境教育を行う一方で、せっかく興味を持った子どもたちも自分の生活と考え合わせた時に選択肢として選ばないということがあるようだ。興味を持ってもらうために活動をする以上、社会として受け入れる機会を提供してあげられる環境になると良いと思っている。
- ・社会にとって意味がある環境分野の取り組みの場や役割を学生や若い人に向けて開示していかないと学生にとって参加する意味が見いだせないということはあるだろう。
- ・制度の志は良いが、交通費の支給でモチベーションを維持し続けることができるだろうか、という点でやはり疑問はあるが、こうしたら良いという提案には至らない。楽しみながら継続するためのサポートシステムを作ることが必要と感じる。
- ・私たちの活動も交通費だけで来てくれるボランティアに支えられている。好きで楽しいということは大抵だと思う。今年度は児童会館と一緒に活動が多かった。子どもと毎日接するフィールドである児童会館の職員に事前遊びのやり方を伝えられる機会が多くあると良いと思う。いろいろな児童会館と関わって行事をやっていくことは続けてほしい。遠くからでも事業に参加してくれる親子が多い時と比べ、自然あそびの経験が少ない親子と一緒にやる事業はやりづらい面もある

が意味があると感じている。

- ・次世代育成の軸に沿って交流をどのようにしていくのかは今後も話し合いを続けていきたい。

(2) 展示コーナー展示物更新について 札幌市より展示コーナー改修について説明を行った。

Q ソフトが入り込む余地が多いようで期待している。使いやすいように改変するうえで実際に運営する環境プラザ側との調整はどのような状況か。

A 職員側の要望で、より運営しやすいように変えていただいた箇所もある。職員だけではなく市民団体や利用する子どもたちなどとも一緒に作っていく部分を大事にしていきたい。

#### 【今後に向けてのご意見】

- ・タッチモニターなどを使って、団体の活動や展示、他施設の紹介などにうまく誘導していく、といった流動的な部分があってほしい。

(3) 次期指定管理について 札幌市より説明を行った。

札幌市 平成 29 年第 4 回定例市議会において、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会が次期指定管理者として議決される見込みである。

これまで原則 4 年としていた指定管理期間が、平成 29 年度に札幌市の指定管理者制度に関する運用ガイドラインが改正されたことから平成 30 年 4 月から 35 年 3 月末までの 5 年間になる予定である。

#### そのほか

Q さまざまな事業において活動を広げる、つながることを掲げているが、次期指定管理期間はこういう方向で試みていけばステップアップできるという考えがあれば聞きたい。

A 各団体と連携を深めていくには人とのつながりが大きい。お互いに共通の土台があると次の活動につながっていくことができるため、そうした共通の土台を持つ方、活動を一緒にする方を増やしていくことが今後の連携をスムーズにさせることとなる。それを踏まえ、指導者との関係を作り、その波及効果として環境保全の広がりにつなげたい。

#### 【今後に向けてのご意見】

- ・指導者の育成に加え、社会の受け皿をどのように考えていくか、短期的、中期的、長期的に環境プラザがどのように関わっていけるのかを含め、この協議会で話し合っていければと思う。